

令和4年度 第1回飯島町総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年12月16日(金)
開会 午前9時 閉会 午前10時30分
- 2 開催場所 西庁舎 営農研修室
- 3 議 題
 - (1) 教育行政に関する懇談
 - (2) その他
- 4 出席又は欠席した構成員氏名
出席構成員

町 長	下平 洋一
教 育 長	片桐 健
同 職 務 代 理	上山 隆三
教 育 委 員	松崎 充恵
教 育 委 員	鈴木 富美
教 育 委 員	桃澤 宗夫
- 5 町・教育委員会事務局職員の職氏名

副 町 長	宮下 寛
総 務 課 長	大島 朋子
健康福祉課長	藤木 真由美
地域創造課長	久保田 浩克
教 育 次 長	小林 美恵
こども室長	森谷 大樹
子育て支援担当係長	座光寺 恵
生涯学習係長	丸山 浩隆
生涯学習担当幹	春日 有美
指 導 主 事	大野 俊浩
生涯学習係	太田 由美
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 議事の詳細 別紙のとおり

令和4年度 第1回飯島町総合教育会議

開 会

令和4年12月16日 午前9時

1 開会

小林教育次長

少し時間が早いですが皆様お揃いですので、これから第一回総合教育会議を始めます。

令和4年度第1回の総合教育会議でございます。よろしくお願いいたします。進行を務めさせていただきます教育次長の小林でございます。よろしくお願いいたします。それでは早速でございますけれども、町長からご挨拶をお願いいたします。

2 あいさつ

下平町長

皆さんおはようございます。早い時間よりお集まりいただきましてありがとうございます。日頃はそれぞれの立場の中で飯島町の行政運営につきまして、ご理解ご協力いただきまして大変にありがとうございます。

特に教育行政につきましては、日頃より献身的にご尽力いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。コロナが3年続いているという社会情勢の中で、教育運営につきましてもなかなか思いどおりにいかなかったり、とっさの対応しなきゃいけない。なんていうようなこともあるわけなんですけど、しかし教育の一の大きな柱というのは曲げずに一步一步を確実に進めなければならぬという環境があるかなと思います。しかし世の中もですね、だいぶいろいろ条件が変わってきましてコロナを境にやはりちょっと考え方が変わってきてるのかなというふうに思っております。現場に段々に具体化されて表面化してきてるのかなとも察しておるところでございます。親御さんたちもですね、いろいろコロナを中心に自己主張をしっかりとするような環境も出てきたりしております現場の対応のスタートも大変だとお察し申し上げます。子供たちを健全に育てるということは町の大きな使命でもございます。また、町の将来を担う子供たちを育てているという意味での地域愛をしっかりと勉強していただくということも将来に向けては必要になってくると思っております。行政としてはこの0歳から14歳の人口がですね、この近隣市町村生活圏が同じという部分においては中川村、宮田村比較するとですね、飯島町が人口9000人のうちの1000人が0歳から14歳。中川村は飯島町の半分4500人のうちの600人が0歳から14歳。宮田村は飯島町と同じ約9000人ですね。そこでは1200人ということで。結局飯島町の1000人というのは、比較をするとですね、200人

少ないなど。ここら辺が飯島町の将来性を見越して、お母さんたちが子供を産み育てという、こういう住んでよかったという町に選ばれるかどうか、これがやっぱり基本だなということでございまして。0歳から14歳の人数をまず特に人口増のターゲットにしているということでございまして。そうすると0歳から14歳の親御さんは何歳かと言いますとですね、まず49歳以下。こういうことが国の試算の方ではじかれている。特殊な何とか人口と言われるんですけども49歳以下の方々が対象。

この方々につきましては、飯島町は「飯島町にマイホーム」という制度を創って、新築した時には200万円、あるいは子供が帰ってくるから増改築したいと、結婚するから増改築したいと、そういうときも200万円。新築したときの固定資産税を約10年間、実質補助するということになります。新築した場合は300数万円のそういった交付が受けられるこんなようなことをやっております。

また土地につきましても民間事業者が土地を造成する場合も200万円補助ということで、こて先でおいわけを配るという方法もあろうかと思っておりますけれども、飯島町の場合にはそういった部分で根本的な対策が必要だろうということの中で今回の子育て、「飯島町にマイホーム」「飯島町で子育て」という政策を大きな政策として年をうってまいりました。これが3年間続けてじっくりとやっていきたいと思ってるんですけども、おかげさまで11月までに62件の応募がありました。それで思惑通りですね0歳～14歳の人数が増えてくれば、これは一気に増えるわけじゃないんですけども、やっぱり長期的展望の中でそういった政策が功を奏すればいいなと思います。町としてもそういったところに力を入れておりますけれども、今日は総合教育会議ということで、いろいろ現場教育上のそれぞれ皆様方、教育委員としての立場の中で常に考えられておるところをまたご意見いただきながら、そういった町の方向性に合うご助言をいただいた中で、政策をとっていきたいなと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。今日は大変ご苦労さまです。

小林教育次長

ありがとうございました。それではレジメに従いまして説明させていただきます。初めての会議でございまして、自己紹介をさせていただきます。出席者名簿があるので、こちらの順番で行いたいと思います。まず最初に副町長お願いします。

(自己紹介)

宮下副町長

おはようございます。宮下ですよろしくお願いいたします。

小林教育次長

それでは続きまして教育委員会の関係、教育長からお願いいたします。

片桐教育長

教育長の片桐です。よろしくお願い致します。

上山代理

職務代理の上山でございます。

松崎委員

教育委員の松崎です。よろしくお願い致します。

鈴木委員	教育委員の鈴木です。よろしくお願いします。
桃澤委員	教育委員の桃澤です。よろしくお願いします。
大島総務課長	総務課長の大島と申します。よろしくお願いします。
藤木健康福祉課長	健康福祉課長の藤木と申します。よろしくお願いします。
久保田地域創造課長	地域創造課長の久保田です。よろしくお願いします。
小林教育次長	教育次長の小林です。よろしくお願いします。
森谷子ども室長	子ども室長の森谷です。よろしくお願いします。
座光寺子育て支援担当係長	子育て支援担当係長の座光寺です。よろしくお願いします。
丸山生涯学習係長	生涯学習係長の丸山です。よろしくお願いします。
春日生涯学習担当幹	生涯学習係の春日です。よろしくお願いします。
大野指導主事	指導主事の大野です。よろしくお願いします。
太田	生涯学習係の太田です。よろしくお願いします。

3 総合教育会議について

小林教育次長

それでは早速、内容等に入ってまいります。着座にて失礼いたします。

まず初めに、資料の3-1をお願いします。1番の地方教育会議ですけれども、地方教育行政の組織および運営に関する法律の規定によりまして、全ての地方自治体にこの会議が設置しているものであります。2の(1)の目的でございますが、町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、飯島町の教育の課題や目指すべき姿を共有し、より一層教育行政を推進するために行っていくものであります。総合教育会議の概要はこちらに記載してございますので、ご覧いただければと思います。続きまして資料3-2の方をお願いいたします。

この総合教育会議の設置要綱になります。また、後日、お目どうしいただきたいと思っております。よろしくお願いします。それではレジメの一番最初の方にお戻りいただきまして、協議事項に入らせていただきます。飯島町総合教育会議設置要綱の定めによりまして、協議は町長が議長を務めることになっておりますのでここからの進行は町長お願いいたします。よろしくお願いします。

4 協議事項

(1) 教育行政に関する懇談

下平町長

それでは議事に従いまして、私の進行で進めさせていただきます。

教育協議事項は、教育行政に関する懇談ということでございますので、それぞれの活動の中でお感じになったところを協議させていただきたい。

小林教育次長

そうしましたら資料4の方をお願いいたします。

こちらの方、資料4で教育委員会から提案事項がございまして1番から3番までは松崎委員、それから4番から7番までは鈴木委員、それから8番は上山代理という一括して1番から3番まで提案を申し上げます。そして一旦区切っていただいて、4番から7番までについても一括でご提案を申し上げます。8番は内容が少し異なっておりますので8番は後ということで、こんな形で教育委員会からご提案を申し上げますので、よろしく申し上げます。

下平町長

はい、それではそういう事務局の今日の予定でございまして、ご提案をお願いします。それでは松崎さん、お願いします。

松崎委員

1番の学童施設の適正な人員の配置にもうちょっと予算を組んで欲しいというこのことを上げさせていただきました。今年の夏、コロナの関係で場所と、指導員と見ていただく方の募集がとても大変だったということをおもひまして、今後の学童クラブのあり方を少し変えた方がいいんじゃないかということで、提案させていただきます。今までの学童っていうのは親御さんが働いている間見てるっていうような意味の学童でありましたが、私が提案させていただく学童というのは、第2の学校的存在ということで、そっちの方向に行ったらいいんじゃないかっていうことをおもひまして。財源がいただければと思います。各県とか、保育園とかはとても充実しておるんですけども、その後の1年生からの子供の場所のあり方っていうのが、今働く親御さんにとってはとても存在が大事だということがあると思いますので、今民営、だいたい都市とかは民営があって、なかなか公設の学童が少ないっていうのがあるようでして、民営になると全然公設とやはり入会金とかの金額が違ってきますし、働いている親御さんにとっては、まるで自分の給料がその学童、その放課後クラブのために働いてるっていう意識があるようなので、もうちょっと公設的な学童の充実っていうのが求められているのかなと思います。それもやはり公設的な人員とそれから内容。ただ親御さんたちが働いている間見てるっていうのではいくらでもできると思うんですけども。人数が今学校とかも減少しているのであれば、その公的な減少している部分の公的予算をもうちょっと学童の公的なものに回して今までの時間だけの中で見てるっていう考えをなくして学校と学童が連結するみたいな以後、場所に考えていくというのもいいのではないかと思う。それはいろいろまた地域の方との連携もあるし部活とか、スポーツとか多趣味とか、学習とかでも繋がっていけば新たな学童の目標っていうか展開にいけるんじゃないか。あるのではと考えました。ただ、やはり親御さんたちは働いているから何もしてあげられないっていう考えをなくすとともに、学童がお母さん、両親がいる間にいるっていうわけじゃなくて、子供の第2の場所っていう子供にとってなくてはならない場所っていうことを一番第一に考えて地域の発展とともに学童が進んでいくっていうことを目標にできればなっていう

下平町長

松崎委員

ふうに考えました。

はい一応全部ご意見を伺ってから後からそれぞれについて時間の中で答えるということで、ご意見だけしっかりと時間をとりますので、続けてどうぞ。

2番、移住者の教育関係の充実と就学者に対する助成金の交付の実施ということなんですが、移住とかを調べてみますと、やはり保育園までのところとかは大体皆さん保護してくれるみたいな感じのが出てて、小中学校高校大学っていうところまでなかなか予算を回してくれないことがあります。特に高校は、高校からも予算っていうか給付金があるんですけども、なかなか審査が厳しくて低所得もそうだし、中間層までもなかなかみてもらえない。なので、もうちょっと町の中にいるのであれば町から予算をもう少し回してほしい。その予算の回し方っていうのも、いずれ会社に就職したらすぐそれを返済するというものではなく何年が就職して落ち着いてある程度お金がたまったら、返してもらえ。又は、町に帰ってきて町に就職すれば、給付金を返済しなくていいという給付になればいい。さらに町の中で社会福祉的な施設に働くことによって、それも返すのを免除されるっていうようになればいいかなっていうふうに思います。やはりせっかく奨学金をもらったのに働いて、働いたらそれが借金になってしまって、なかなか働いても働いてもお給料はもらえるけど、自分が借りた奨学金のために返すことになって、家庭を持つことができないっていう状況が今の日本の若者の大きな問題になっているようなので、そこを町が戻ってきて何年かしたら返すことでもいいっていうふうになれば帰ってくる。若者が帰ってくる。奨学金の与え方っていうのを、返さない、町に帰ってきたら返さなくていいよっていうふうになればいいなと思います。それとリニアができるっていうことをメインにして、リニアができたなら、今なかなかこの周りって高校の私立がすごく少ないと思う。東京とかはすぐ通勤圏内、埼玉、それから神奈川電車では、すぐ私立学校に行けるんですけども、長野は中々広くて、松本とかに行かないと私立の公立以外の高校に行けないっていうのがありますし、交通の不便さもありますが、リニアができることによって通勤圏内や通学圏内になります。そこで通学の支援っていうのも予算を組みたてるのもありかなと思います。大学生とか通学の定期の何割かは町が負担できてそれもさらに会社に町に戻ってきたらそれがまた免除になるっていうふうに、ここの町で育ったら、これだけ便利なものがあるよっていうのも高校、大学の人たちにとってメリットがあるようなものが必要じゃないかなっていう風に思います。

続いて3番目はだいたい2番と3番は同じで移住者の人にも、もうちょっと小学生、高校大学にも補助というか勉強の学費負担っていうのをくればばいいかなっていう。それもすぐに返すっていうわけじゃなくて、何年か町に定住していただいて、仕事も安定して、さらに息子さんたちが帰ってきたらその補助

下平町長
鈴木委員

もなしになったりとかそれぐらいの心意気で給付金などをあげたら、もっと移住者が増えるし、定住者も増えるし、若者も帰ってくるかなっていうふうに繋がるのではと思います。やはり借金はいずれ返さなきゃいけないっていうのは、みんなの結局は借金になるわけですから、ご恩と奉公じゃないけど、これだけ貸してあげたから町に帰ってきて、町に奉仕してっていうような感じに変えたらみんないいかなと思います。

はいありがとうございました。続きまして鈴木さんお願いします。

資料4のきずなネットの延長活用ですが、これは、媒体はきずなネットでもなんでもいいんですけども、今現在は保育園から中学校までは、学校もしくは教育委員会からの連絡等がある場合は、きずなネットというアプリで保護者の方へ通知がきます。ですが、中学校卒業すると強制的にそれがなくなります。高校、大学、「就職した後に帰ってきてよ」って言っても子供たちにとって、町ってどういうことを今やってるんだらうとか、そういう情報が一旦途切れてしまう。保護者から子供たちに就職どうという話はあるかもしれませんが、直接、町や教育委員会の方から、情報を与える。流す。そして繋がっておくことが大事だと思います。媒体はきずなネットじゃなくても私はいいと思います。このことを提案した後すぐに、コロナ申請でラインワークスを試運転しているということだったので、ラインでやるならラインでもいいと思いますが、町と繋がっておくという仕組みを一つ考えてみてはどうかと思います。卒業したら連絡が途切れる。ではなくて、例えばその高校生とそのままつながっておけば、例えば先程の学童の人員不足の時に長期休みの時に「手伝って」という情報を流すと何人かアクションがあったりするかなと思っています。それだけじゃなくて休日、もしくは、平日の夜でもいいんですけど、社会体育だとか「ここが人数が少ないんだけど手伝って」というような内容も流せば、手伝ってくれる人員ももしかしたら確保できるかもしれないと思います。繋がっているというのがやっぱり、これから大事かなと思います。そこにもし、費用が発生する場合は面倒を見ていただきたいです。

5番については、部活動ですけれども、部活というよりは生徒の人数が少なくなってきたので、部活の数を制限させざるを得ないという状況です。この部活は人数がこれだけしかいないから無理だからこのスポーツはやめよう。このスポーツじゃないとできないというようなことよりは、例えば中川村とかその近隣の中学校と連携して部活動、活動っていうかそれに携わるスポーツをやりたい子供たちがやりたいスポーツを維持させるような方向をちょっと模索していただけたらなと思います。国としては部活動は平日で、土日の部活と休日部活は、要は自分たちでお金を出してやってねっていうような方向性になりつつあります。そうすると、お金があるご家庭はできるけどお金が厳しいご

家庭ができないってことになりかねないなと思っていて、そうすると公的な学校に通っているのに、制限がかかるのは思わしくないというのが正直な感想です。ですので、かかる負担ってものを町で助成してみていただくとか、国が助成して見ていただくとか、そのような話にもって行っていただければ、子供がやりたいことを我慢せずに自分がやりたいものをやれるが維持できるのかな。今はまだ維持できていますが、近い将来できなくなると思います。この仕組みになってしまうと、維持するにはどうすればいいのかということを考えてもらいたいです。そして、それに係る費用が発生する場合は、その費用負担を考えてもらいたいです。

6番についての与田切公園の美化についてですが、ここであまり言うべきことじゃないかなと思います。与田切公園を観光スポットとして観光地として売り出しをしている場所だと思うのですが、管理者が代わったせいなのかわかりませんが、トイレとか雑草とか、そこら辺が手が行き届いてなかったり、プールの上の時計ですが、全然違う時間をずっと刻み続けていたり、ちょっとしたことなんですけど、でもそういうちょっとしたことが訪れた人にとっては「何だこれ？」となってしまうと思います。あそこを使っていच्छる方が管理人の方に言っはいるんですが、それが何度言っても届かないっていうのは、どうすればいいんだろうか。本来はそこで声が届いていればこんなことを私がこの場で言う必要はないと思います。そのやっぱり綺麗にならないっていうのが町としてはデメリットかなと思っていて、お金の出所がわからないので、すみませんが要は来た人が気持ちよく過ごせるようにする方法を考えてもらいたいです。現状はトイレもすごく汚くなっちゃいましたし、雑草もすごいですし、落ち葉もひどいですし、キャンプ場の方はいいですよ、そうじゃない公園の方がもう1回行きたいかな。2度3度遊びに来ようかなっていうふうな所になってほしいなと思います。

7番の信州版ジョブキッズなんですけども。これについては教育委員会のほうで資料をつけてくださってるんですけども、県の方で「ジョブキッズ信州」をやってまして、長期休みに小学生が対象だったと思うんですけども、いろんな企業のところに自分が興味があるところに応募して、人数制限があるんですけども、それに通れば仕事を体験できるというものです。飯島町は中学生で職業体験してるんですけども、あそこまでガッツリの職業体験ではなくて、うちの子供も1回行ったんですけども、テレビ局のアナウンサー体験とかそういうのをさせてくれます。ただ、その人数が少ないのと、遠いっていうのがちょっとデメリットなので、もし可能であれば役場の仕事をいろんな部署がありますので、そういったところを長期休みに体験できるっていうものがあれば、子供たちも町の役場の人たちはこういう仕事をしているんだっていうのが小さい

ながらもわかる。小さいころから触れていくというか、学校の多人数でダダってきて、ただ通って見学するのではなくって、少人数でも各部署に配置してもらって何か体験できるようなことがあれば子供の今後いろいろ体験していく中でいい刺激になるかなと思って、ここはお金はかからないと思うんですけど。人員がかかる。役場の方の負担はかかるとは思いますが、やっていくとどうかかなと思います。以上です。

下平町長

はいありがとうございました。続きまして上山さんお願いします。

それでは最後の8番です。

上山職務代理

それでは上山の方からよろしく願いいたします。コロナ禍となって3年となっているということになりますけれども、最近では第8波ということですが、最近の飯島町周辺の状況を見てみますと私感ずるには、かなり人数が増えてきたという状況にあるかと思えます。そういうことで、多分入院するのは本来の在り方だろうと思えますけど、多分大部分の方が軽症であるというような感じで、自宅で療養されてる方がだいぶいるんじゃないかなかなと思います。それで自宅療養をされてる方に対して、町の支援というか、職業支援とか薬の支援とかそういうものがどのようにされてるか聞きたいと思えます。それとできれば、薬もいい薬があるというようなことも聞いておりますけれども、そういういい薬というのは、感染者に対して支給されてるかどうかということがちょっと疑問になっている。一般的にコロナの病気に対する薬はどんなものかいいかっていうと、風邪薬とか解熱剤で別にいいんじゃないかと言われてるようなことがありますんで、本来的には普通にいい薬があれば皆さんに行き渡って欲しいと思えます。それからワクチンがもう第5回目ということで非常に早くに対応していただいておりますけれども、子供さんに対するワクチンなんですけど、どの程度いっているのかが私どもにはわかりません。そういう状況で、できれば子供さんでも、良いワクチンであれば、早く打っていただいて、極力かからないようにしていただくのが一番良いと思えます。そういう状況を、教えていただければと思えます。もちろん役場の方々には非常に苦労されて、その対応をされてるとは思いますが、今後ともちょくちょくはやらない様に早く打って、早く無くなって欲しいと思っております。ずっと続けて教えて欲しいなと思っております。

下平町長

はいどうもありがとうございました。三方のご意見が出そろいました。あらかじめ皆様のご意見をお伺いしておりましたので、それぞれの対応につきまして、町の方での説明をしていただきたいと思いますというふうに思っています。

1番の学童クラブこれは応急的な処置、就学クラブじゃなくて恒常的に必要ではないかと、こういう体制をとってほしいということでございます。

森谷こども室長

学童クラブについて回答させていただきます。

現状につきましては、昨年今年についてそれぞれの学校の学童クラブの人員の増員と、備品等の更新を認めていただきまして整備を進めているところであります。ただご質問の第2の学校のこれまでの学童クラブのあり方ではなく、学校と連結した学童クラブっていうところまでまだ行きついていない。そういったところまでまだできるだけ情報交換の部分、足りない部分のご意見をいただいたところでは、それぞれ課題があるかと思いますので今後の研究課題として、学校とも相談をしながら検討していきたいと思しますのでよろしくお願ひします。

片桐教育長

松崎さんのおっしゃることもすごくわかってなんですけど。どうしてもやっぱりそこに出てくるのは、今本当に学校の教員もそうだし、それから保育士さんもそうだし、どうしてもそこに人が絡まなきゃならないっていう、その人の確保がやっぱり一番大きな課題になってくるのかなっていうふうに思っています。多分学校との繋がりってなるとやっぱり、ある程度その教員免許を持っていたりとかそういう方も必要なんだろうし、ただそういう方が本当に今学校現場は人数、先生が足りないっていう状況の中でそっちに回してもらうことができるのかどうかってこともあるし、その辺はやっぱりどうしても現状では一つ取り組んでいくには課題になってくるかなというふうに思っています。

松崎委員

そこを移住者の人たちに募集に入れるのもいいと思う。ですけど、また資格なんていうんですかね、こんな職種を持ってますっていうのがあれば、またそこに定住しやすいだろうし、こういう仕事がまずありますよっていうのをアピールするのも大事なのでは。無い無いではやっぱり集まらないと思う。そこにやはり人員だと思うので、外から来てもらうのにこういう仕事がありますからぜひ、年齢も、あのシルバーの人が来れば第2の仕事場になるし、もっと働き手が広がるかとも思う。

下平町長

今までの子供たちの放課後の居場所的、そういう存在から（聞き取り不能）なかったという対応だと思うんですけども、これは他の行政等ではサンプル等あるんですかね。

片桐教育長

そうですね。今大野先生が関わっています中学生は未来塾っていう学習活動が水曜日の放課後ということになりますけど、そういう活動を行ったりとか、それから本当に試しで始めてるんですけど、中学生の定期試験前、それから長期休業中にこれは大野先生に力になっていただいて中学生で、来た人は一緒に勉強しましょうって言うこの施設をお借りして、学習を見てたりっていうそういう活動はしているっていう所、本当に現有のそのメンバーの中でやってくっていくところで、松崎さんのおっしゃる通り、それによって移住者っていうところもそうですけど、でも、そもそも私なんかはやっぱり町に住んでる人たちはどう今の子供たちに貢献してくれるっていうか、そういうところまでや

下平町長

っぱり移住者ばかりには頼れないよなっていう、そういう感じもしています。
いろいろそういった形の走り、目指し（聞き取り不能）でおるけれども、これが本格的に（聞き取り不能）ですけども、いろいろ学校との連携等ございますので一歩ずつちょっとずつ進めていくっていう感じで。

片桐教育長

でも一つのアイデアとして参考になる。

下平町長

続きまして2番目の教育に支援をお願いということでございます。

森谷こども室長

2番目3番目のご質問についてです。

まず教育費の学資の2番目っていうところですが、まず授業料っていうところで見ると中学義務教育と高校は授業料については無償化っていうところで町ではないですけど全体として支援が進んでいます。高校大学に対して授業料だけじゃなくて教材費がかかったりですとか義務教育より、もちろん負担がかかって大学に行くともっと極端にかかっている。そんな実態に対して奨学金制度が今あるところですが返済猶予等は期間の話はありますが、給付型っていうところは今の段階で出始めたりとか制度が整備されているところです。そういった中で今町長からお話があった通り議員の方からも今回緊急質問を受けるという位置づけでしたが、ご質問、提案をいただいたところです。それに合わせてではないですが、町の方も人口増プロジェクトということで、給付型、助成金、補助金という形として一つの考え方として検討させていただいているところで、前向きに町としてもそういった学びっていうところに負担がかかることを定住に繋げる形で支援することができないかということで検討させていただきたいと思います。

下平町長

人口増プロジェクトの中でもそれが討議されているということでございます。この上伊那8市町村の中で辰野町と飯島町だけがそういった体制がないということでございます。これでも支援をしておりますので、それをどう使っていくかなという部分なので、今しっかり勉強させていただきたいというふうに思います。3番を含めた中で一旦これで松崎さんの回答ということでお願いします。

次に鈴木さんのきずなネットのシステムを今後、高校大学の子供さんたちにも繋がりというものを持つためにこれを維持していったらどうかということでございます。お願いします。

森谷こども室長

きずなネットは、中学校卒業の保護者の方と、ご家庭との情報の連携ということで、まさにご質問いただいた通りの課題があるかなというふうに思っております。きずなネットは連絡網ですので、ご質問の通りそのまま継続っていうのも一つの案っていうところで、移行期間でもありますし趣旨としてはプッシュ型の通知っていうところで保護者の方への的確な情報がこちらから発信で届くということがポイントかなというふうに思います。課題は様々ありますの

で、支援っていうところもそうですし、こちらの定住っていうところも先ほどの学童とか、発信内容は様々あるところですよ。学校っていうところに限らず、町全体として住民に対しての情報発信という課題として町として抱えているところかなと思います。教育委員会に限らず、町として町民に対して情報共有を、特に高校大学っていうそのスポット的に空いてしまう学生たちに届く情報というところがちょっと今少し課題として認識している部分になりますので、ご意見を参考に検討させていただきたい。

下平町長

我々の行政も、町の中の若い人たちもイベントをするときに、高校生も手伝ってもらったり、大学生に持ち上げを拝借して手伝ってもらうという場面が欲しいなというのは今までもね、商工会青年部のころ非常にあった。そこへ絡んでると、郷土への愛着心が非常にあるんだな、この祭り俺たちが作ってるからという意味でね。そういったことで、高校生大学生へも連絡があってイベントあるのをちょっとお手伝い願いたいとかね、そんなのがあれば、その果てに就職の案内というのができると思う。これはやっぱり出すべきじゃないかなというふうに思いますね。情報全然内容が違いますけどね中学生までの発信する情報内容とは違いますけども、高校生向けに大学生向けのそういった新鮮な情報だったら、非常に興味があると思います。

鈴木委員

今は保護者向けなので、できるのであれば本人に届くようなシステムがあるといいと思います。

下平町長

親離れするからね

小林教育次長

研究が必要ですので中学生卒業されて今度は、生徒さんが大学とか高校の本人と、LINE でやるのか、どうやってやるかは研究は必要ですけど、アドレスをいただきながらこちらで必要な、こちらの情報をできるだけお流しできるような体制が組めればいいなと思います。

下平町長

それでは5番目に入ります。これはこの部活の問題ですね。中学校は生徒が少なくなって一つの学校では部活が成り立たないという状況の中で近隣の学校と合同でやると、そうするといろいろな親の負担がでできます。それをご支援願いたいということでございます。どうぞ。

森谷子ども室長

部活の維持についてということで、今まさにおっしゃる通り課題として（聞き取り不能）かかえるような状況になってしまっているっていうところですね。どうしても人員的に全てが網羅できないっていう課題を持ちながら、それを何とかしたいって思いが今交錯している状況が何年か出ているという状況です。国の方針として今、先ほどおっしゃった通り地域部活を通して（聞き取り不能）な形になって進んでいくのではないかと想像される場所ですが、現状は休日の地域部活ってところで部分的に地域へ移行。一方、地域連携と教員に対する負担の軽減というところで、飯島町も国、県の支援を受け

ながらそういったところを試行錯誤している状況であります。上伊那でも課題としてございまして、そういった教育連携、団体の代表者が訪問いただいてそういった連携ができないですかと相談もありまして、県の担当者の方に「何とかして」と運んでいただいて、どういった形がいいかということで相談をさせていただいてるところです。その際に、都会とこの地方では全然成り立ちとか規模が違うので、都会であれば大学の部活動の経験者が、そういった自分の収入とかそういう中で支援してくれる方がたくさんいらっしゃる。それを成り立つだけの経済としても人数がいる。対して地方では、そもそも成り立たないという、全く同じ仕組みが使えないというところの中で、どういった形ができるのかってところが課題なんですけど、お金の面ですね。そういったところが率直に出てきてしまうので、バスで移動するにしても、それだけ人を雇うとしても、そういったところで、県の方で見ていただいた際に、町だけの支援では難しいと。先生が費用をもらいながら、成り立っているという部分も県の方に、今度形が変わっても支援してほしい。受けられない子供も抜いてはもちろんできないと思うので、（聞き取り不能）必要だと思いますので、支援をして欲しいという要望を上げながら、検討させていただいているところです。転換期ということで、かなり今難しいところに来ていて、先生方も苦勞されながら今仕組みを模索中ですので、引き続き相談させていただきながら、いい形になればと思っていますので、よろしくをお願いします。

下平町長

せっかく大野さんお見えになってるんで、大野さんの立場から考えて、動きがないですか？

大野指導主事

去年からそのまま部活はやらせてもらってるんですが、これからずっと子供が少なくなってくるっていうあの数を見ただけでも要するに、クラブ活動を維持するのは難しいことかなとは思っています。一番簡単なのは、これだけ一つしかないとかね。絞っちゃえばいいんだけどそんなの子供がかわいそうな気がするし、やめちゃうのは簡単だけでも、続けるっていうことをね、大事にしたいなと思います。多分飯島町の中でもいろんな自分の部活の経験を持ってる人がいるので、そこを活かしたいなと思う。せっかく教えることができる人がいるので是非残してあげたいなと思います。でも学校でも当然いろいろ考えているし、校長先生たちが勉強して中体連の担当の方がいろいろ残したいと考えてると思います。やっぱ広域でやらないと維持するのは難しいだろうと思う。今の中学2年生が吹奏楽に20人ぐらい入ってるんで、それは良かったんですが、他の部活が苦しい本当に苦しいです。今年なんかは1年生野球部10人ぐらいサッカー部10人ぐらい入ったので、バレー、バスケット男子、女子、四つの部活を考えても1人、2人、0という状況ですので、子供が一つの部活にバーって行っちゃうと他の部活が苦しいっていう状況がうまれています。やはり近

隣の市町村で連携するという事しかない。そうするとやっぱり移動するか、そういうことにあるような補助（聞き取り不能）を出してあげないと家庭の負担は大きくなるだろうなと思います。

下平町長

どうか委員の皆さんこういう問題は飯島町だけじゃなくてどこの自治体でも同じような問題を抱えておる。今それぞれの学校に一つずつちゃんとクラブが成立してるなんていう時代じゃないし。お隣同士で協力しなきゃいけないと、あんまり遠く離れたってしょうがないんだけども、飯島、駒ヶ根、中川・宮田、特にこの近場で考えると伊南の4市町村のこの中で部活のそういった統合とか統一的な支援、「じゃあ、バスはこの部活についてはどこが出す」とかいうようなことは、教育部長さんたちの間では何か話し合われてるんですかね。

片桐教育長

町長のおっしゃるように、本当にこれ日本全国いわゆる地方の自治体の方は本当にやっぱり困っているっていう状況になってます。やっぱり都市型の考え方で、実は国が地域部活って言ってなかなか県のレベルでどういうふうはこの地域部活を進めていくかっていうことは、なかなかはっきり打ち出されていないのが実情で、すーと市町村まで下りてきてるっていうそういう状況があって、市町村レベルではその辺が不満といえば不満なところですよ。それでやっぱり飯島町の部活動を考えたときに、おっしゃるように、単独でうちの町だけで続けられるように。やっぱりやりたいことが制限されるっていうことを防がなきゃいけない。これをやりたいけど人が少ないからできないっていう状態にならないためにも、今連携を具体的には来週、宮田と中川とはそういう懇談を持ちます。それから先週は飯田市が飯島町はどういう状況だっていう話があって飯島町、飯田市、駒ヶ根市と懇談をさせてもらってるっていう状況です。やはり広域化をどう進めていくかっていう、具体的にどう進めていくかっていう方向になっていくんだと思う。それを具体的に動いていってるっていう状況です。さっき費用の話がありましたけど、今国では現状では3分の1国、県が3分の1、市町村3分の1っていう、そういうような方向で考えてるみたいですけどもその辺もまだ具体的なものは来てないっていう状況です。

下平町長

県の指示を待っているのは、当然町の事情はわからないから、予算配分が決まってるんだったら近隣の市町村でどういう連携で、まずやってみる。そこをついでバレーならバレーをやってみる。次はバスケをやってみようという形で一步一步ちょっと現実的に進めるような方向で教育長会議の中でもちょっと話して、行政で方向性が出たというんだったら行政報告していただいてということになりますんでちょっと積極的に何か形を作って欲しい。

片桐教育長

指導者が確保できるかどうかっていうところがあるので、休日の日に指導できる、お仕事を持っている方達についていうそういうところがあるので、本当に

その指導者を確保することが可能になるのか。そういう意味では先生方の一応兼職兼業っていう形で申請出させていただいて認めている部分もあって、部活動をやりたいっていう先生もいるので、そういう先生たちがどのくらいおられてっていうあたりも同時に調べて取り組んでいかなきゃいけないかなと思ってます。

丸山係長

来年度の予算から地域への部活の休日移行の部分について、生涯学習係の方で、具体的にはさつき教育長さんからありましたように国3分の1県3分の1町3分の1っていうのがおぼろげなやつが9月頃に出ているんですが、「何が」というのが出ていないのでわからないが想定してるのは、来年5年度から5.6.7年の3ヶ年の集中期間と国は言っている。休日の支給。休日分のそれについて来年度は、二つの部活を対象にして飯島中学校の場合はやりましょうという計画を出しております、その部分の指導者土日の指導者の分の報酬、それから旅費、それから子供たちの保険料それから指導者の保険料このところについて国3分の1県3分の1町3分の1で予算立てをしています。ただ今後の休日の移行だけでなく、いろんな活動をするのに遠征の費用とか、もし広域で連携するとなると、いつも動いてるバス代そういったところが保護者負担になりかねない。そこら辺のところの措置を取っているいろんな面がありますので、とりあえずその講習とか保険料とかその部分だけ来年度から少し予算化をしていきます。

下平町長

予算化されて一步一步進んでるということでございますね。次に与田切公園の美化、ちょっと汚いというご意見を伺います。

久保田地域創造課長

大変鈴木委員さんには言いにくいというか、そういう質問を出さしてしまった担当課としては大変申し訳なく思っています。申し訳ございません。実はそういったご意見は他にもいっぱいいただいていて担当にはいろいろのご意見が届いています。担当課としてしっかり管理ができてないということで本当に申し訳なく思います。ご存知の通り指定管理者に令和3年4年と2年間お願いしております、その都度我々も現場を見に行き注意をしてきたわけなんです、なかなか十分ではないという私自身も見に行く中で、同じ気持ちになっているときもございました。自分自身もそういう風に思っています。指定管理の期間が今年度末で終わります。来年の4月から新しい管理者に変更もあり得ますので、しっかり指定管理者には今まで以上に町としましても、この指導をしていきたいなと思います。町には観光基本計画がありまして、その観光基本計画では、与田切公園から坊主平千人塚からのエリアですね、与田切川溪谷なんです、そこを町の観光の中心にしていこうというふうに位置づけられています。その上のアグリネーチャーとか町民の森、傘山そこまで広げていきたいという計画がある。この計画の実行をどう進めていくんだっていうので、観光

戦略会議というものを設けています。観光戦略会議の委員さんたちは2年任期なんですけど今年の8月で切れました。最後に任期が切れる時に町に対して戦略会議としてはこうあるべきじゃないかという提案をいただいています。その提案は与田切公園がこうあるべきだという提案なんです。その中にはやっぱり町民の皆さん子供からお年寄りまでが集える公園にしてほしいとするべきだというような趣旨の提案をいただいております。町が公園を設置している公園設置条例というのがあるんですが、こちらでは町民に憩いの場を提供することにより、余暇の活用および健康の増進を図るため、公園を設置するということになっておりますので、こちら辺は戦略会議のご提案等、我々が設置している行政目的とほぼ一致しているのかなと思っています。なのでこういった形で整備を進めていきたいと思いますが、観光施設という先ほど委員さんがおっしゃる通り、集客というところも大事な部分でございますので、次の指定管理者には企画力、イベントの企画力だとか、経済力もそうですけども、情報発信力、集客力そういうところに期待したいなという風に思っています。ご存知の通り与田切公園ができてからもう40年近く経っていて、40年前の生活と今の生活って全然違うんですよ。入ってくる道も歩道も無ければ、人が歩くにも、当時は駐車場から歩けばいいという時代だったんですが、今はもう全然違いますので、町の実施計画という3年計画があるんですが、その中では与田切公園をちょっと再整備していこうというふうに今動いています。先ほど言った戦略会議の意見とか議員からもいろいろ意見いただいていますけど、そういった公園の目的を明確にする中で使いやすい、今にあった明るい公園がいいとか、子供のアンケート調査を行っていますので、そういった形でまた再整備をしていきたいと思っていますので、ちょっとしばらく整備の方はまたご意見あればいただきたいと思っていますし、注目していただければありがたいと思います。環境整備につきましては、しっかり対応してまいります。よろしくお願ひします。

下平町長

そういうことで飯島町の顔だからね千人塚にしても与田切公園にしても、外部の方々が訪れる、町民の方々も訪れるってことですから、飯島町の顔ですからやっぱり綺麗にしておかなきゃいけないという、これは基本の御指摘をいただきましたので、そのように頑張ってみようと思います。よろしくお願ひします。

続きまして飯島版ジョブキッズについて子供たちにそういった仕事の機会をもう少し与えてほしいなということです。

大島総務課長

よろしくお願ひします。ご提案ありがとうございます。先ほどおっしゃったとおり、中学生の皆さんは、毎年職場体験で2日間来ていただいて、いろんなお仕事をしていただいているんですが、役場の仕事ということで、小学生さんっていうともう少しわかりやすい内容にした方がいいかなと思っています。

小さい頃に役場の仕事を見ていただくことで、いずれ町に携わるような仕事をしたいなあと思っていただける人が、一人でも増えるといいなと私も思うところです。ジョブキッズ信州の県のホームページを見させていただきましたら、いろいろな企業さんが参加していて、町でも内堀醸造さんがWeb体験でしたけれども載っていました。そういう内容を見させていただきながら、役場の全体の仕事の中で各課と協議をして、検証させていただければと思いますのでよろしく願いいたします。

鈴木委員

4年生は、浄水場とか下水場の見学に行くんですが、それをやっているのは役場のこの課がやっていて、こういうふうな管理をしているとか、建設なら建設のところではこんなふうな仕事をしているっていう窓口があれば、2日3日でもいいと思うのですが、今年はこれに行ったから、来年はこれをやりたいなというような場があれば、興味を持つ、そして体験をするっていうのが一番子供にとって残ると思います。Webでの体験っていうのは体験ではない。見て終わり。YouTubeと一緒に。ではなくて、やっぱりこの場所に来て空気感を感じて、こんな仕事をしてるっていうのが、やっぱり体験だし、それが残っていくと思うので、そこを考慮してもらえると嬉しいです。保健係なら保健係でこんなことをやっているとか、総務なら総務でこんなことをやっているというのが、低学年は難しいにしても、高学年はある程度わかってくるので、そうすると難しい言葉はわからないにしろ、こういう仕事をしていますっていうのが肌で感じるということは、すごい大事だなと思います。検討していただければ嬉しいなと思います。

下平町長

これ職種も難しいかと思えます。恒常的にとなると現場が足手まといになっちゃう。だからいろいろ覚えてみてもらいたいのは山々だけれども、ちょっとその体制を導入するかっていうのは研究課題ですね。ただ、トレーラーハウスを歩くときにね、あそこへ仲間たちで泊まってもらってさ、農業の種まきとか収穫とかそういうような、こういう作業だったらね。これはまた面白いことになるのかなっていうふうに思えます。そんなことをずっと考えながらご提案をいただいて、トレーラーハウスを地元の人たちに、活用していただくとか、そういうようなことがあってもいいのかなと思います。また泊りがけで行くのはまた面白いんじゃない。高学年になればそんないたずらしないだろう。自分たちでお風呂に入ったりとか。

鈴木委員

そういうキャンプはたくさんあるので、飯島町でそういうのがあったら嬉しいなと思います。

下平町長

おじちゃんおばちゃんが来て、タネを蒔いてとか芋を掘っているのはおもしろいんじゃない。そういう軽いノリでやったらいいな。いろいろ研究しましょう。

丸山係長

図書館で中学生の職場体験小学生の1日図書館。夏休みにやっています。コロナが明けたら再開されます。そちらをぜひ、毎年数人のお子さんが体験していただいて、すごく好評です。続けていきたいと思えます。

下平町長

最後にコロナウイルス感染症対策についてであります。自宅療養者に対する町の支援はどうなってるんだというお話。子供のワクチンはどうなんだろう、ということで今いい薬があるかどうかということでございますが情報お願いします。

藤木健康福祉課長

コロナにかかってしまって自宅療養をされている方、又濃厚接触というような判断をされている家族の方が多いかと思えます。家族で自宅での待機を強いられている方が最近の状況を見ると多くなっているのかも感じております。その中で一応社会福祉協議会の方に相談させていただいて、自宅療養ですとか自宅待機をしているがために食べるものだとか、生活に必要なものの買い物に行けなくて困っている、そんなような方たちのために社協において、買い物代行をするような支援を行っております。支援の必要なこの対象の方から直接、社協の方に申し込みをしていただいて具体的な内容ですとか、支払い方法をどうするか。そういったことを社協の方と打ち合わせをしていただいて社協の方で買い物をして商品を自宅に届ける、そういうような簡単な内容となっております。もし困ってる方がいらっしゃったら「社協があるよ」と口添えをしていただけるといいと思えますし、HPの方でも掲載しております。今保健所の方でも、てんやわんやかと思うんですけども、この情報の方は保健所の方にも共有をさせていただいています。ただ、商品の購入代金は実費負担で協力をしていただくところになっております。いい薬があるのかというところなんですけれども、ちょっと直接町が関与をしてっていうところではないので、実際どうなってるのかなというところ。国の方の情報から見ますと、良い薬が出てきて、国、県からおろして、各医療機関におりるような形の体制をとっているのかなと思えます。県から医療機関各医師会を通じて配置がされてくるのかなというように思っております。それから子供に対するワクチン接種の状況なんですけれども、資料の方は4-⑧に1週間ごとに接種の情報がアップされてくるんですけども、システムの方へ入力をしています。全国一律管理をしている接種のシステムになります。お示しさせていただいているこの表については、接種率については各年齢階級別の接種率になっております。0歳から4歳、5歳代について、接種した方が何%いるのか、というような形になっております。これが毎週更新がされてくるものになるんですけども。今のご質問の、子供たちの接種なんですけど、今接種できるのは乳幼児が6ヶ月から4歳の乳幼児の接種、また5歳から11歳が小児の接種ということで、ワクチンもそれ専用なものになっておりまして、接種を実施しているところになってるんですけど、やはり子供

さんへの接種が簡単にできるものではありませんので、伊南の4市町村で協力をし合って共同で接種をするようすすめていくような形をとっております。接種枠を設けてご希望の方に予約をしていただくというような形をとっていません。接種する場所ですけれども昭和伊南総合病院ですとか、のどかクリニックでの個別接種、また駒ヶ根市の泰成スポーツフロアでの集団接種。このような所で接種枠を設けて案内をしている。実際には対象のご家庭に案内の通知をさせていただいておまして、接種を希望される方の予約を受けて接種券等々発行しているような状態に対応をしております。接種率なんですけれども、やはり12歳以上の一般の接種に比べますとやはり低いのかなと思います。特に、6ヶ月から4歳の子供さん、乳幼児に対する接種は始まったばかりでもありますので、12月5日の0歳から4歳の1回目の接種率が0.35%とありますけれども、こちらの方は12月12日現在で2.0%になっております。なので接種が進んでいるような状態になっています。1月2月と接種の枠を設けて対応していくところですよ。ちょっと5歳ですとか、10～11歳は変わりはないかなと思います。やはりお母さん、家族の方もちょっと慎重に考えられるような傾向があって、接種率は低い傾向にあるととらえています。そんな状況ですが、よろしく願いいたします。

上山職務代理

確かに低年齢者0歳から4歳とか5歳10歳から11歳これはかなりの率が低いですね。やっぱりこれお母さん方が心配されてるのは多分後遺症があるからちょっと心配だとか、打ったらどうなるのかそういう点が、多分あると思いますので、もし、「打っても大丈夫だよ」ということがあれば、もう少しはつきりしていただいてやれば、接種率がUPするかなと思います。

藤木健康福祉課長

やはり副反応ということが、コロナ接種に限らず、予防接種とかは副反応というのはあるものかなと思います。「こういう副反応があります」というようなものが国、県を通じて情報が下りてきているものもお母さま達、家の方にもよく伝えながら考えていただいてご希望をもらっている形をとっています。よろしく願いします。

上山職務代理

薬に関して、いい薬があるってことは聞いてはいるんですけども、でも実際を見るとほとんどその恩恵を受けていないといわれている。例えば入院しなければその薬の投与がないと言われてるんで、今後いい方法で改善してほしい。

藤木健康福祉課長

どこまでできるかわからないがまた広報へ載せたい。こちらでも把握できればいいなと思う。よろしく願いします。

松崎委員

予防接種の件で、高校生の親の立場で質問させていただきたいのですが、時間が学校から終わって受けに来たい場合など病院が終わってしまう。なかなかそのあと受けられない。集団接種の場合、土曜日とかでも学校があるため、

その日午前中しか時間がなくて、もう少し遅くまで集団接種をやっていただきたいのが一つと、学校がある間、副作用が怖くて休めないっていうのがあるので、もうちょっと休みのときに集団接種の期間を増やしていただきたいというのが要望である。これは何か意見が他にありましたか。

藤木健康福祉課長

今オミクロン株の対応のための集団接種の方を組んでいるような形になっておりまして、町の集団接種会場についてはなかなか接種出来る体制が整わないと接種することが難しくなってしまいます。個別接種でどこまでできるのかというところになってくるかと思う。

松崎委員

個別接種の受けたい時間がどうしても学校がある。その病院に合わせてなので、病院が5時に終わるため4時ぐらいに行かなければ。6時までやっていただければ放課後行けるんですけども、診療に合わせてっていうことになるので要望っていうかその病院に負担になるかもしれないんですけども。週何日かはちょっと長くできるような時間があったら助かると思うんですけど。受けたくても受けれない。それで学生の間でも流行ってしまう。個人の診療の、町の中で出来る要望というのをしていただければありがたい。朝早く受けて学校に行けるとかでも助かる。時間がやはり合わないというのがあります。

藤木健康福祉課長

医療機関もいくつもあるわけではないので、それぞれの診療もありますので、要望としてお聞きして相談をしていきたいなというふうに思います。

下平町長

飯島町の方向性をお示しさせていただきましたけれども、全体の中で意見がありましたらお伺いします。

鈴木委員

今日の議事には載せてないが、子どもの数が減ってきているという現状で、七久保小学校は目に見えて減ってきているが、そうすると学校の存続をどうするかという話が次に出てくると思う。私個人の意見、思いですが単に人数が減ったから統合しましょう、一つにしましょうというのではなく、そこに住んでいる人たちの思っているのを汲んで、今後どうしたらいいのかっていうのを検討してほしいです。

下平町長

今後この問題についてそう遠くない時期が来ると思います。地域の皆さまのご意見を聞いた中で、判断されていくと思います。（聞き取り不能）のご意見もある一方で教育は大勢の人数の中でのなるべくやった方が良いという方法、考え方もあるので、そこら辺はどういうふうに地域の意見の集約ができるのかなというふうに思っていますけども。なかなか難しい問題ですよね。そのときの町長はあまりやりたくないなど。そういう時は来ると思います。教育長さんのご意見ありますか。

片桐教育長

前教育長さんからも、その懸案はいただいているところであります。ただ、今は、それは鈴木さんおっしゃるように、単純に数っていうことではなくて、子供たちのなんていうか抽象的ですけど成長していくにあたって、どうなのか

っていうそういうものも必要になるだろうし単に統合という形でいいのかという事もあるだろうし。その辺は考えていかなきゃ。ただ私としては、私が教育委員会へ来る前の動きからすると、七久保小の数って、思った以上に減っていったっていう、そういう状況かなっていうふうに思っています。もっと極端に落ちてくるかなと思ったんですけど、意外に落ちているのは逆に飯島小の方が落ち方は大きいのかなって感じもしているので、その辺は様子を見ながらのことですけど、いずれ何らかの形で、今の0歳児がもしかすると飯島中が1学級になるかもしれないです。そのあたりになってくると、本当に何か考えていかなければならない状況が生まれるかもしれない。

下平町長

教育委員会がなかなか難しい問題を抱えることになると思います。

上山職務代理

辰野で今統合問題やっていますね。一応決着して統合するってなっているようですので、それが一つの参考になるかも知れません。

下平町長

七久保は特殊なところでね、地域の人たちが非常に、学校に愛着を持って積極的に学校の行事に参加していただいておりますので地域・PTA・先生と子供たちの連携からいくと1番これ取り上げてもらいたい学校教育の現場だと思っている。聞いてもらいたいなと思っています。頑張っってしっかりと子供を増やしているのです。

鈴木委員

増えれば問題ないです。

下平町長

今までご意見いただかなかった桃澤さんいかがですか。

桃澤委員

教育委員を命じられまして、5年半ほど見させていただいたんですが、この間ですね、子育てセンター設立、ハンディ端末の全員配布、給食センター設備とかいっぱいと言いますか飛躍的な教育環境面の変化が進んでいるなど感じています。その意味では今日出席の町長さん、幹部の皆さんのご努力大変だったなど、感謝しております。その運用についてもかなり進んでいるように教育委員としては感じています。例えば子育て支援センターは他町村の利用が進んでいる。他の町の方が来ている。給食センターでは調理員の皆さんと子どもたちの交流も深まりながら顔の見える食育がすすんでいる。だいぶ前ですけども、都会に住んでいて、こっちへUターンしてきた私としても、それから昨年1年は、娘が子育て出産で移住させてもらった経験から、飯島の町政というか特に子育ての点では娘もつくづく言ってますが、都会に仕事関係で戻ったのですが、ものすごく手厚さを感じる。顔の見える行政対応。子育て支援センター、ずいぶん世話になったそう。そういう感想で私もこの町の誇るべき点というか、優れている点、手厚さ感、町民一人一人の顔が見えてやれる点では素晴らしい誇るべき点があると感じています。ただ一方で、現場で働く方々の個人的なご努力とか善意でもってそれが支えられているんじゃないのかなという危うさをつくづく感じてまして。「危うさ」って言いましたけども町独自でそれ

を支えられるか。国、県の働きがけが必要なかわかりませんが、三つほど感じています。1つはその待遇の問題ですね。もう重々ご存知だと思いますが、子育てセンターの職員が集まらない。安いから。今でもコロナは職員の人でひろって帰ったり休まなくちゃいけない。となると、給食センター関係職員と近しい人たちの総動員体制で維持していることが結構あるように聞いています。保育士さんたちの個人的な努力はすごいギリギリのところにあると感じていまして、なんか最近の報道でいろいろ出てますけども。国の基準の保育士対子供の数の問題であったり、辞められた保育士さんがいるにもかかわらず、安い、きついから応募する人はいないという話を、この当町にはあるようです。待遇の問題が1つあるようです。

2つ目はコロナで学級閉鎖があったクラスではリモート授業で十分乗り越えていて端末配って良かったなと感じているが、これが長期間になったりすると多分先生の努力もパンクする。ICTがかなり進んでいます。ICT技術の支援という点ではやっぱり何か危うさが残っています。特に子供たちのITリテラシーって問題ですね。

3つ目は町独自で大変なんですね。発達障害児の子供たちはそれなりにやっぱりいるんですが、結構手厚くはしているものの、全体として意識が高まってきますと、おとといの毎日新聞では8.8%と。全国的には増える傾向にある。しかもその顔が見えるとか手厚感がある。そこに障害児教育ができるとやっぱり専門的な支援とか親への支援とかが課題になっている。そんな三つの危うさを感じながら。現場はギリギリなんでしょうけれども、工夫しながらこの6年間で相当頑張っているんじゃないかと感じています。すいません感じだけで。

下平町長

どうもありがとうございました。桃澤さんから大きな問題が、今提示されたわけですが残念ながら次の会議が10時半からありますので、次は前もって問題を提起していただいてこちらの方針を示させていただきたい。今日のご勘弁をいただいでよろしいでしょうか。はい、それでは事務局お願いします。

小林教育次長

皆さん、どうもありがとうございました。ご意見いただきましてありがとうございました。以上で令和4年第1回飯島町総合教育会議を閉じます。お疲れ様でした。どうもありがとうございました。